Captain English Course I · II Revised

この教科書で使える英語を 身につけよう

プロテニスプレーヤー **杉山 愛**



◆教科書っぽくない教科書

Captain English Course $I \cdot II$ Revised (以下,Captain $I \cdot II$) を読み,とにかく読んで楽しめる文章が集められていること,そして,それをいろいろな角度から習得できるように工夫された教科書であるという印象を受けました。絵や写真も豊富で,面白く読めるのはもちろん,その後に理解を深めたり,内容についての質問をリスニングしたり,さらには自分の意見を取り入れながらディスカッションしたりというところまでできる,とても構成が練られた教科書だと思います。

取り上げられた題材で特に印象に残ったのは,Captain I の Lesson 4,Be Your Own Captain!,Have a Break 3の Great Speeches,Readingの The Best Lesson などです。Lesson 4の最後,KONISHIKI さんの"You are the Captain of your life." は心に残る一文でしたし,The Best Lesson はとても中味が濃く,読み応えのある文章でした。Great Speeches は,長さも手ごろなので高校生でも全文を覚えられるのではないでしょうか。覚えるだけの意味や価値がある文章だし,きっと将来に使う機会があるのではないかと思います。

その他,目の錯覚や食文化,ボランティア,友情と恋愛の問題など,引き込まれて思わず読んでしまう話題ばかりで,"いかにも教科書"という使えない文章ではなく,会話文なども,そのままふだん使えそうな文章が多く盛り込まれているという印象を受けました。

さらに、楽しいだけでなく、 $Captain\ I$ の最後 の Lesson は War of the Landmines という地雷 の話です。おそらく日本人は、外国では今でもこのような戦争の被害が続いているということさえ 知らない人が多いのではないかと思いますが、知ることによって海外に目を向けることにつながります。教科書によってそれが可能になるのは、素晴らしいことだと思いました。

◆意見を持ち、それを表明すること

教科書のなかで、読む一方ではなく、Communication 1「有名人になって自己紹介しよう」やCommunication 2「構想をねってスピーチをしよう」(ともに Captain I)といった活動に多くのページが割かれていることも、とてもよいと思いました。

日本人は、意見を発信したり、ディスカッションしたりすることが苦手です。私の経験を振り返っても、選手時代のプレイヤー・ミーティングで、他の国の選手は拙い英語でもどんどん質問するのに、日本人はシャイでその場では発言できず、あとでこっそり個別に質問したりしているのを見て、歯がゆい思いをしていました。私自身も、最初は難しくてなかなか堂々と意見を出したりできませんでしたが、そういう場に身を置くことで、すこしずつ慣れて、発言できるようになりました。学校のクラスでそのような立場を経験することや、そういう場を練習することを重ねると、将来の役にも立つし、日本人も成長していけるのではないでしょうか。そのためのステップと

して,このような英語でのコミュニケーション活 動はとてもよい刺激になると思います。

日本は、譲ったり一歩下がったりということが 美徳とされてきた文化で、それはもちろん悪いこ とではありませんが,世界の中で日本人が生きて いく上では、とてももったいないと思います。海 外の会議などでは,大した意見ではなくてもアピ ールがうまくて評価されたりする面もあります。 特に今のグローバル社会の中では,これでは日本 は置いていかれるのではないかという印象があり ます。一概に、いつでも自分を押し出すことがい いわけではないけれども, 臨機応変に主張すると ころは主張する、といった態度が、これからはも っと必要になってくるのではないでしょうか。

◆語学が引き出すもの

ただ、そのような自己主張をするといっても、 そのときには英語の形態や文の形式を身につけて おくことが重要になってきます。英語には自己主 張しやすい文型や形式がたくさんあります。基本 的な英語の文の成り立ちは単純で, 文型や動詞の 変化などをある程度覚えてしまえば, 日本語のよ うなまわりくどい言い回しや、ややこしい敬語な どを気にする必要はないので、しゃべりやすい言 葉なのではないかと思います。

その意味で、 $Captain\ I \cdot II$ は、レッスンごとに現在形,過去形,現在完了形,などといった文 法項目を習得できるので、とてもわかりやすいと 思います。これだけの文章をしっかり習得すれ ば、相当しゃべれるようになるはずです。この教 科書にある英語の"型"をきちんと身につけれ ば、自分の意見を伝えることも、コミュニケーシ ョンすることもできるようになると思います。

語学力が引き出すものというのはやはりとても 大きくて, 私も日本語をしゃべるときと, 英語を しゃべるときではメンタルやテンションが違いま す。海外の選手とは対等に強気にやり合うことも ありますが、日本人が相手だとなかなかそうはい

きません。それは言葉によって変わるわけです。 やはり, 英語のストレートな, スパーンと斬り込 むような形態によって引き出されるものだと思い ます。

◆英語が話せて損はない

私は, 自分の好きなテニスが世界を舞台にして いて英語が絶対的に必要で, 話せないというのは 考えられなかったので, そういう意味では英語学 習に対するモチベーションが高かったのですが, 高校生の多くにとって,動機付けが難しいという のは理解しています。国内だけが活躍の場だとい う職業もあれば、そういう将来を描いている高校 生もいると思うし、それは決して悪いことではな いと思います。

でも私は, 英語をしゃべれて損はないよ, と言 いたいです。

今は、地球の裏側でも1日あれば行ける時代で す。今のこの世に生まれてきて、これだけ世界が 小さくなっているのに, 英語がしゃべれないとい うのはもったいないと思うのです。チャンスがあ れば,海外にどんどん出ていってほしいと思う し、出ていったらきっと英語が話せるようになり たいと思うはずです。英語が話せれば楽しみも増 すし、いろいろな人に出会って広い世界のユニー クな考え方にも触れられるし,何より自分自身の 世界がぐんと広がります。

先生がされる学校の授業というのも, すごく影 響力が大きいと思います。生徒が将来英語を使え るように, 英語が生徒の将来に役立つように, 日々の授業を工夫していただけたらいいな, と思 います。使える英語ということで言えば、まさに Captain I・II はそんな題材の集まった教科書な ので、ぜひ活用していただきたいと思います。

(すぎやま あい・プロテニスプレーヤー)